

ABRSM

ARSM 受検要項

和訳



ARSM 受検要項

目次

更新内容（2023年3月）	3
1. はじめに	
ABRSMについて	4
資格認定における詳細	5
この資格について	5
資格認定規定（英国）	6
資格認定規定（英国以外のヨーロッパ）	7
資格認定規定（それ以外の国）	7
2. ARSM 検定	
シラバス（要項）	7
検定規定集	7
不正受検と不正運営	7
受検資格	8
受検申込み	8
受検へのアクセス（特別な配慮の必要な受検者）	9
検定の構成	9
検定の実際	9
特別な配慮	10
3. ARSM 要項	
はじめに	11
課題内容	11
・ 受検可能な楽器	11
・ 演奏全体の評価	11
・ 演奏曲の準備	11

・ 検定の準備	14
4. 評価と採点及び違反行為	
評価の目標	15
評価の配点	15
評点の区分	16
包括的評価について	16
評価	16
評価の基準	16
違反行為	17
5. 検定の後に	
結果	18
アピールとフィードバック	18
6. その他の検定	
DipABRSM, LRSM, FRSM	19
曲目プログラム用紙（参考和訳）	20

更新内容（2023年 3月）

- 今回の更新においては、2023年3月に新たに加わったARSMミュージカルシアター検定に関する内容が含まれています。ミュージカルシアターのARSM検定は、2023年9月1日以降から受検が可能です。
- 2023年3月8日以降にオンラインで受検する場合、受検者は自身の演奏動画をアップロードする際、プログラムの内容をオンラインで提出します。対面検定においては依然として紙面でのプログラム様式を提出する必要があります。

前バージョンから追加された更新内容（2022年6月）

これらの追加要素および更新内容は今回の2023年3月バージョンにおいても適用されます。

- 特別な配慮に関する情報が含まれました。[第2項]
- 自由曲の選択条件に、受検者自身の自作曲を含む出版されていない曲が選択できるように変更されました。[第3項]
- 同じ曲を二つ以上の検定で使えるように条件が変更されました。[第3項]
- 演奏の全体評価に対する追加の案内が含まれました。[第3 & 4項]
- オンライン検定において、ひとつの検定に対し、同じ動画を二度以上提出することを禁ずる項目を追加しました。（アップロードは1度まで）[第4項]
- 要項の違反行為及びそれらの対処について、新しい情報を追加しました。[第4項]
- 受検者の身分証の提出が必須になったため、プログラム様式を更新しました。

第3項を含む一部の内容において、今までの条件や情報をより分かりやすくするため一部の説明を改善しています。

1. はじめに

ABRSM について

ABRSM は音楽への情熱を基に指導者や学習者を長い間サポートしてまいりました。その中の一つがグレード検定です。ここでは厳格で一貫性のある基準が設置され、各々次のステップへの明確な目標となっています。この検定は4つの英国王立音楽大学から協力を賜り、音楽の達成感を得る為にさまざまな工夫と試行錯誤を経て、いまや世界中で価値が認められ、信頼されています。

グレード検定は楽器だけではなく、声楽、ジャズ、音楽理論そしてプラクティカル・ミュージシャンシップなど、多岐に渡って行われます。シラバスは基本的な音楽スキル—聴く力、演奏力、読む力、書く力、そして音楽の知識と理解力をベースとしています。これらのスキルと共に、学習者は音楽力を伸ばし、さまざまな音楽分野での能力を発展させることが出来ます。

検定は、学習者にわくわくする体験と多大な恩恵をもたらします。まず、学習者はモチベーションを持ち、素晴らしい音楽の発見と共に新しい技術を身につけることが出来ます。さらに検定で音楽の目標に到達することによって、達成感が得られるのです。

ABRSM は学習者にとって、この検定を受けることが前向きで実りの多い経験となるよう最善をつくします。ここではスペシャリスト、音楽指導者、検定員の協力のもと、幅広い課題曲が選択されており、高度に訓練された検定員は、親しみのある態度で受検者に接し、彼らが検定において最大の力を発揮するよう努めます。また、検定員は明快で分かりやすい基準に基づいて、信頼できる客観的なおかつ一貫性のある評価を行います。最後に受検者は価値のあるフィードバックとなる採点用紙を受け取り、全ての合格者には、合格証書が渡されます。

私たちは、このシラバスが学習者、指導者の音楽力、指導力を高める上に励みになり、役に立つものとなるよう願っております。皆様の「音楽の旅」が実りのあるものとなりますように！

私たちの使命

ABRSM の使命は学習者が音楽を学んでいく過程で達成感を得られるよう導いていくことにあります。私どもはこれを英国王立音楽大学4校（王立音楽院、王立音楽大学、王立北部音楽大学、王立スコットランド音楽大学）と提携して行なっています。ABRSM は音楽の持つ芸術的価値、また音楽教育の重要性に強い情熱を傾けており、音楽と関わっていくことによって、人々は類のない素晴らしい経験をし、生涯に渡ってその恩恵を受けとることが出来ると信じております。

ABRSM は世界の音楽教育を先導しており、その評価体系、出版物、そして指導を通して、音楽を教え、学び、創り、そして楽しむ際に必要な知識や手段を世界の人々に提供しています。

ABRSM の奨学金、寄付、後援そしてパートナーシップは、あらゆる年齢の人々が音楽と出会い、その潜在能力を十分に発揮する機会を作り出しております。また私どもの全て活動は、学習者と指導者の「音楽の旅」をサポートする目的のために行われております。

ABRSM とは？

ABRSM (Associated Board of the Royal Schools of Music) はイングランドとウェールズにおいて登録されている団体であり、事務局はロンドンにあります。詳しくは公式サイトをご覧ください。
www.abrsm.org

資格認定に関する詳細

この資格認定に関する詳細には、指導者、受検者、保護者そして団体が以下のセクション3に属する実技検定試験を準備する際に役立つ資格規定の関連情報が掲載されています。

- ・ ABRSM レベル4 音楽演奏ディプロマ資格(ARSM)

また、検定の過程、学習の成果、採点基準などの詳細が掲載されています。検定の事務事項などを含める詳細は、ABRSM 検定の規定概要(www.abrsm.org/examregulations)にて提示されていますので、申込の前に必ずお読みください。

資料の構成

この規定は、ARSM ディプロマの受検が可能な全ての科目（楽器）に適用されます。第3項は、検定条件の詳細や受検可能な楽器のリストなどが含まれる要項です。各楽器の課題曲リストはwww.abrsm.org/arsmdiploma において閲覧可能です。

要項の有効期限

この要項（シラバス）は 2023 年 3 月から有効です。2017 年から使われている各楽器の課題曲リスト（ミュージカルシアターは 2023 年から）に変更はありません。

特別な事情がある場合にはシラバスに変更を加えることがありますが、その場合はウェブサイトにて前もってお知らせ致します。www.abrsm.org/arsmdiploma にてこの要項の最新版が閲覧可能です。

この資格について

資格認定の目的

ARSM は、演奏に重点を置いたディプロマであり、学習者が楽器（又は声楽）テクニック、音楽的な解釈、表現力と伝達力など、演奏において重要となるスキルを披露できるように設計されています。これらの検定は、学習者が無理なく意欲を持って引き続き音楽技能を発展させ磨いていけるよう構成されています。

受検者は受検したグレードの習熟度や批評、助言等が書かれた正式な講評を受け取りますが、これはこの先、引き続き学んでいく過程において貴重な指針となるものです。さらに ARSM 検定では受検者が一定以上の長さのリサイタルプログラムを演奏して音楽的な表現を聴者に伝達する能力を認められ、褒賞を得る機会を与えます

受検資格

この検定は実技グレード検定（パフォーマンスグレード含む）のグレード8に既に合格し、更に演奏能力を全体的に伸ばして行くことを望む学習者のために設計されています。受検に年齢の制限はありませんが、受検する前に受検資格条件を満たす必要があり、詳細は英文 10 ページに記載しています。

この検定要項では異なる年齢、経歴、音楽への興味や関心に沿って幅広い課題曲が選択出来るよう工夫されています。プログラム構成に自由度を与えるため、受検者たちは自身が選んだ自由曲を含めることが出来ます（ただし、相応の難易度のものに限る）。

また私どもは、すべての受検者が公正な評価を受けられるよう、要望に沿った受検会場の手配や調整を行っています。ARSM には受検者が検定員の質問に答えたり、初見の曲を演奏したりする条件は含まれておりません。オンライン受検は、受検者が望む日時と場所で行うことが出来ます。このような面においても、ARSM は非常に受けやすい検定となっています。

構成

ARSMは音楽の演奏において必要な基礎的知識とその理解を包括的に評価できるよう慎重に設計されています。これらのクリエイティブな能力は楽器の演奏テクニックのコントロール、曲の解釈、そして一定の長さのプログラム演奏における表現や伝達を通して披露されます。これらのスキルは総合的に、受検者を次のレベルのディプロマ及び他の芸術資格に繋げていくことが出来るのです。

受検者はARSM課題曲リストから最低20分以上、自ら選ぶ自由曲（グレード8以上の難易度）を最大10分とする30分の多様でバランスの取れたプログラムの演奏を披露します。特定の楽器においては、うち1曲を関連楽器で演奏することが出来ます。演奏された曲目すべてについてまとめて一つの評価が与えられ、演奏全体についての評価が加えられます。

学習の道すじ

ARSM ディプロマは、ABRSM の二つの検定 - 実技グレード検定とパフォーマンスグレードから段階的に難易度が上がったものとなります。どちらの検定から上がってきた受検者にも、ARSM はプログラム構成においてより大きな自由度と責任を付与すると同時に、自身のレパートリーを増やしなが演奏テクニックと音楽的な解釈能力を更に培って行く機会を提供します。

ARSM の後は、ABRSM 又は他の組織が提供する上位レベルのディプロマへと進むことが出来ます。これらの資格では、受検者は自身の演奏スキルを披露すると同時に音楽知識と理解を筆記と質疑応答で証明します。

現在上位ディプロマ検定を再審査中であり、この要項の有効期限内に変更される可能性があります。最新情報は www.abrsm.org/diplomas にてご確認ください。

受検資格の事前取得

ARSM 検定には、対面またはパフォーマンス（オンライン）グレード検定のグレード8の事前取得が必要となっております。このグレード8は、ARSM 検定の楽器と同じもの、またはその関連楽器で取得している必要があります。

資格認定規定(英国)

英文 7-8 ページは、資格規定です。ARSM 及び上位ディプロマ資格検定、パフォーマンスグレード、対面実技検定、理論検定はイギリスにおいて次のような規定機関によってその資格を認定されています。

- 英国資格試験監査機関(Ofqual)
- ウェールズ単位・資格枠組み(QW：ウェールズ)
- 教育課程・試験・評価評議会(CCEA：北アイルランド)

詳細は、次のリンクを参照ください。 www.abrsm.org/regulation

資格単位フレームワーク(RQF)

ABRSM の資格は全て RQF に含まれるものです。フレームワークには 9 段階の資格レベルがあり、入門レベルから 8 まで難易度別に区別されています。詳細は、次のリンクをご参照ください。

<https://register.ofqual.gov.uk>

資格認定規定(英国以外のヨーロッパ)

英国 (RQF) と英国以外のヨーロッパ資格フレームワーク (EQF) と対比表は、英文 8 ページをご確認ください。

資格認定規定(それ以外の国)

各国のポイントについては以下を参照願います。 www.abrsm.org/regulation

2. ARSM 検定

シラバス(要項)

課題曲有効期間

ARSMディプロマ検定における各楽器の課題曲リストは、は2017年から、課題曲リスト更新の告知があるまで有効です。

シラバスの変更

すべての変更—マイナーな変更点を含む変更告知—は、その都度下記の公式サイトに掲載されます。
www.abrsm.org/syllabuscorrections

次回のシラバス

次のシラバス及び課題曲リストの更新がある場合、事前にウェブサイトにてお知らせします。
(www.abrsm.org/syllabusupdates)

検定規定集

検定の準備をする際の、様々な規定をしっかりと理解することは、重要です。この規定集は、英国公式サイトからダウンロードできます。www.abrsm.org/examregulations

不正受検と不正運営

私たちは音楽力の達成を目指しています。そして、この検定は何千人という人々の音楽学習や指導に役立っているのです。特に高等教育への進学の場合はこれが顕著です。したがって、この資格の価値や公正性は、受検者の技術と知識を測る指標として大変重要なものとなっております。不正行為は、決してあってはならないものであり、重大な事柄なのです。

- **不正受検**とは検定評価、結果や、証書発行過程での妥協的行為を伴う場合を指します。資格授与団体としての名誉や評判を傷つけるような行為もこれに含まれます。
- **不正運営**とは運営上の手続きが著しく規定に反するもので、特にこれが検定結果の公正性を損なう場合を指します。

受検者、受検申込み者は当該シラバス及び、検定規定集、をもとに決められた手続きに従って、受検を行うものとします。不正受検が行われた場合は罰則があります。詳細は英国公式サイトにてご参照ください。 www.abrsm.org/policies

受検資格

受検における年齢制限はありません。受検者は検定の申し込み締め切り日までに受検する楽器の ABRSM グレード 8 (パフォーマンスまたは対面実技グレード検定) に合格していなければなりません。もしくは、以下の表 1 に提示されている資格を代替条件として受け付けています。また、表 2 に記載されている関連楽器のグレード 8 も ARSM を受検する楽器の代替資格として認めています。

ABRSM グレード 8 の代替資格

グレード 8 (右の機関の検定資格)	Trinity College London London College of Music Music Teachers' Board Guildhall School of Music & Drama Royal Irish Academy of Music Dublin Institute of Technology Conservatory of Music & Drama Australian Music Examinations Board University of South Africa
グレード 9 (右の機関の検定資格)	Royal Conservatory of Canada

上記の代替資格を提示する受検者は、理論検定の資格を持っている必要はありません。

関連楽器/受検出来る ARSM 検定の科目(楽器)

ピアノ — ハープシコード — オルガン

ヴァイオリン — ヴィオラ

ハープ(ペダル) — ハープ(ノンペダル)

ソプラノ・サクソフォン — アルト・サクソフォン — テナー・サクソフォン — バリトン・サクソフォン

トランペット — コルネット(B♭管、またはE♭管) — フリュージェルホルン

トロンボーン — バストロンボーン

バリトーン — ユーフォニウム — チューバ

パーカッション — パーカッション(混合) — 楽音パーカッション — ティンパニ — スネアドラム

声楽 — ミュージカルシアター

証明書類の提示

必要に応じて、合格証書の写し、またはその他の証明書類を要求する場合があります。要求された書類が提出されない場合、エントリーは取り消されます。なお、この際受検料の返金は致しかねますのでご了承ください。

受検申込み

検定日程、会場、受検料、申込方法については下記のサイトをご覧ください。

www.abrsm.org/exambooking

受検へのアクセス（特別な配慮を必要とされる方）

ABRSMは、視覚障がい、学習障がい、その他通常の受検が困難なすべての受検者が、この検定を受検できるように、ガイドラインを設け努めてまいります。詳細は次のページにてご確認ください。

www.abrsm.org/specificneeds

このガイドライン以外の事例については、ケースバイケースで対応いたします。

ARSMでは、受検者が検定員の要求に応える要素や、初めて見る楽譜を読む必要は一切ありません。よって、演奏に追加の時間を付与することはできません。ただし、受検者が必要とする支援の範囲によっては、演奏途中の休憩の時間などを必要に応じて追加することが出来ます。

詳しくは accesscoordinator@abrsm.ac.uk 又は www.abrsm.org/specificneeds にご相談ください。

日本で受検される場合、日本事務局にまずお問い合わせください。 info@kakehashi-foundation.jp

検定の構成

ARSMは演奏のみの検定であり、プログラムの演奏と演奏全体の2つの要素で構成されています。各々の配点については英文20ページを参照のこと。

検定の実際

ARSMは次の二通りの形で行われています。

- 対面検定：受検者は、検定員一人の前で演奏します。
- オンライン検定：受検者の演奏動画を、検定員が評価します。

対面検定

検定会場、楽器及び道具

ABRSMの指定検定会場にて：

- アップライト、又はグランドピアノが用意されます。検定時と同じ楽器での事前練習は提供されません。ただし、検定員はそのような状況を審査時に考慮します。また、演奏を始める前に少し試し弾きをすることは認められます。
- 必要な場合、譜面台を提供します。ただし、受検者は自分の使い慣れた譜面台を持ち込むことも出来ます。チェリストなどための椅子は用意されますが、コントラバス奏者の椅子は、受検者が用意する必要があります。
- この他に必要なものは、受検者自身が用意します。

ピアニスト以外の受検者は、自分の、楽器、および演奏に必要な道具を全て持ち込む必要があります。

検定員

通常、1名の検定員によって検定が行われます。課題曲の前後に検定員が楽譜を確認する場合があります。

始める前に

受検者は、検定開始の時点で検定員に紙面に記されたプログラムを提出する必要があります。

受検者は演奏前に空間の音響などを確かめるため短く歌ったり弾いてみたりすることが出来ます。特にピアニストは、楽器に慣れるためにも弾いてみることをおすすめします。

検定所要時間

受検者のプログラムは30分と規定されています。全体の検定時間は40分であり、これには受検者の入室と退室、チューニング、検定員が演奏の間に評価を記録する時間などを含みます。検定員はこれより長く、又は短く時間を使う場合があります。

時間超過

検定員は、受検者が規定時間を超える場合、演奏を止めることがあります。

オンライン検定

検定会場、楽器及び道具

受検者は演奏を動画で撮影し、評価のため ABRSM に提出します。動画は受検者/申込者が選んだ場所で撮影します。受検者の家、学校、先生の教室、その他にも適切な空間と楽器(伴奏者用のピアノを含む)が用意されている場所ならどこでも行えます。受検者/申込者は検定に必要な場所や機材(譜面台や録画機器)を前もって確保する責任があります。

ピアノ：演奏課題曲が完全な形で演奏するために適切なピアノを使う必要があります。これは、グランド、アップライト、または電子ピアノが使用されます。電子ピアノが使用される場合、ピアノ音色であること、88鍵ありピアノ同様の鍵盤タッチであること、アクション、幅、ダンパー・ペダル等がピアノと同様の機能をもつことを条件とします。演奏曲を楽器(鍵盤数が少ないピアノなど)に合わせて編曲することは禁じられています。また、全ての電子ピアノで得られない演奏効果がある点にご注意ください。検定員は楽器自体の特徴などについて認識するかも知れませんが、検定は結果的に採点基準における要素に基づいて、音楽の全体的な完成度によって評価されます。

演奏動画の撮影

全ての曲は一度に連続してワンテイクで録画されるべきであり、撮影中の停止や撮影後の編集は一切禁じられております。受検者は演奏を始める前に自由曲(複数ある場合全て)の楽譜冒頭を必ずカメラに見せ、自己紹介と演奏する曲の紹介を口頭で告げる必要があります。検定員は受検者が演奏を始めた瞬間から評価に入ります。

受検者が18歳未満の場合、録画の過程を18歳以上の大人が責任者(申込者、先生、保護者など)として監督する必要があります。

動画の撮影及び提出の詳細は、公式サイトの手順をご参照ください。

www.abrsm.org/arsmdiploma

時間超過

検定員は、受検者が規定時間を超える場合、超過分の演奏を聴かないことがあります。

特別な配慮

受検者が突然の病気や事故、悪阻、或いは検定直前の不慮の不都合な状況に陥った場合には、特別な配慮がなされます。これは、検定員による配点や評価が変わるということではありません。詳しくは次のリンクをご参照ください。www.abrsm.org/policies

3. ARSM 要項

はじめに

ARSMは、演奏に重点を置いたディプロマであり、学習者がグレード8以降に演奏スキルを披露できるように設計されており、プログラム構成において学習者により大きな自由度と責任を付与します。また、自身のレパートリーを増やししながら演奏テクニックと音楽的な解釈能力を更に培って行く機会を提供します。

受検者はARSM課題曲リストから最低20分以上、自ら選ぶ自由曲（グレード8以上の難易度）を最大10分とする30分の多様でバランスの取れたプログラムの演奏を披露します。筆記や質疑応答を含む他の要素がなく、受検しやすくなっています。

課題内容

ここでは講師指導者と受検者が ARSM ディプロマ検定を受ける際に考慮すべき重要事項の概要を説明します。検定の事務事項などを含める詳細は ABRSM 検定の規定概要にて提示されていますので、申込の前に必ずお読みください。(www.abrsm.org/examregulations)その他の資料は次のリンクをご参照ください。

www.abrsm.org/arsmdiploma

受検可能な楽器

ARSM ディプロマ検定を受検可能な楽器は以下の通りです。

各楽器の課題曲リストは www.abrsm.org/arsmdiploma にてご確認ください。

- 鍵盤：ピアノ、ハープシコード、オルガン
- 弦楽器：ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ギター、ハープ(ペダルのみ)
- 木管楽器：リコーダー、フルート、オーボエ、クラリネット、バスーン(ファゴット)、サクソフォン
- 金管楽器：ホルン、トランペット、コルネット、フリューゲルホルン、E♭ホルン、トロンボーン、バストロンボーン、バリトーン、ユーフォニウム、チューバ
- パーカッション
- 声楽、ミュージカルシアター

演奏全体の評価

演奏スキルは ARSM ディプロマにおいて一番重要な要素であり、各曲の練習や準備以上のことを要求します。学習者の演奏者としての能力を発揮できるバランスがとれた多様なプログラムを構成し、本当の意味での音楽的な意図を持って聴衆に伝えることは、音楽的な成長において重要な要素です。これによりスタミナも強化され、ひとつの曲から次の曲へと繋げることなど、長時間の音楽プログラムを演奏するために必要なテクニックのコントロール能力を与えます。曲の特徴と雰囲気伝える方法を探し、様々なスタイルのレパートリーを研究して熟知すること、そしてそれらの曲を組み込んで一貫した、説得力のあるプログラムに仕上げることは、学習者の音楽の知識と理解をさらに深めることが出来ます。演奏の全体評価がどのように審査されるのかについての詳細は、この要項の第4項をご参照ください。

演奏曲の準備

演奏時間：演奏時間は、30分です。これは最初の一音から最後に弾く一音までかかる時間です。

- ±2分が認められます。
- 30分の中には休憩時間も含まれます。

- ・ 木管楽器、金管楽器及び声楽(ミュージカルシアターを含む)受検者は(30分の中で)最大3分の休憩をとることができます。オンライン検定では、この休憩の間撮影を止めてはなりません。この演奏時間は、このレベルで要求されるスタミナ(耐久力)を含めるスキルの範囲と深さを披露するために必要な長さとして定められています。

演奏科目: 以下に述べるプログラムは30分の演奏時間内に行われます。

- ・ この内、少なくとも20分は ARSM 課題曲リスト(ディプロマと同じ)から選択すること。各楽器の課題曲リストは www.abrsm.org/arsmdiploma を参照のこと。
- ・ 残りの曲は、以下の点に注意して、受検者が自由選択します。(最大10分)
 - 自由曲はグレード8と同じ、或いはそれ以上のレベルであること。
 - 自由曲は、受検者自身が作曲及び編曲したもので構いません。(「自作曲」の項目参照)
 - 自由曲は、標準記譜法によって最初から最後まで記譜された楽譜が存在するものであり(ギターなどのTAB譜やリードシートなどは不可)、その楽譜に書いてある通りに演奏されなければなりません。
 - 選曲についての承認は不要であり、そのための承認要請は受け付けません。
 - 選択された自由曲の水準に問題があるとみなされた場合、ABRSMはその楽譜を他で入手できないと判断した時など申込者に楽譜の写本を要求することがあり、その場合、検定結果の発表が遅れる可能性があります。
 - 木管、金管、声楽(ミュージカルシアター含む)での受検者はこの10分間に休みをとること。
 - 課題曲のみの演奏も認められますが、それによって評点を有利にするような影響はありません。
- ・ プログラムは、多様性があり、バランスのとれたものであること。
 - 曲想、調、テンポなどの多様性
 - 時代様式等において少なくとも二つの対比的な曲を選ぶこと。
 - 一作曲家につき、一作品とする。(声楽及び ARSM 課題曲リスト内の一作曲家による数曲・数楽章を集めたセットは除く)
- ・ 課題曲リストにおける複数の楽章は、そのまま演奏されなければなりません。
- ・ 受検者は、トゥッティの省略やコンチェルトのカデンツ演奏について、自由選択をすることが出来ます。
- ・ 課題曲の演奏上の指示には従うこと。

伴奏者: 受検者は、必要に応じて伴奏者を伴うことが求められています。(指導者でも可)

録音された伴奏は不可、又検定員は伴奏いたしません。

楽譜、出版について: 編曲されている課題曲(リストに‘arr.’又は’trans.’と明記されています)は、その出版社のものを使用すること。それ以外の場合は受検者の自由選択となります。

課題曲リストに掲載されている出版社は、あくまで参考の為のものです。受検者はそれ以外の、どの版を用いてもかまいません。ダウンロード版も含まれます。課題曲の入手については、英文19ページに記載されています。

自由曲は全て出版されたもの（製本版又はダウンロード版）又は標準記譜法に従った読みやすい表記の楽譜（ギターなどのTAB譜やリードシートなどは不可）に限り、表記された通りに演奏しなければなりません。使用した楽譜の出版情報の詳細などはプログラムリストに必ず記入すること（英文 18 ページ参照）。

自作曲: 受検者の自作曲または編曲を自由曲として演奏することが出来ます。評価するのは演奏のみで、曲自体の構成や完成度などについて判断することはありません。しかし、他の自由曲同様、曲の難易度はグレード 8 以上の水準であることが必須条件となります。「楽譜、出版について」の項目もご参照ください。

関連楽器での受検: 楽器によっては、主な楽器のほかに関連する楽器での演奏が可能です。その場合、演奏の大部分は主楽器によって行われること。詳しくは次の表をご参照ください。リコーダー、サクソフォーン、トロンボーンにおいては、各楽器の課題曲リストの冒頭にそれぞれの関連楽器オプションが記載されています。

主楽器	関連楽器
ヴァイオリン	ヴィオラ
ヴィオラ	ヴァイオリン
チェロ	ヴィオラ ダ ガンバ
フルート	ピッコロ、アルトフルート
オーボエ	コーラングレ
クラリネット	E♭管クラリネット、バスクラリネット
バスーン	コントラバス
トランペット	ホルネット、フリューゲルホン
ホルネット	トランペット、フリューゲルホン
フリューゲルホン	ホルネット、トランペット
バリトーン	ユーフォニウム
ユーフォニウム	バリトーン
チューバ	サウザホーン、ユーフォニウム
ハープ（ペダルあり）	ノンペダルハープ
ハープシコード	スピネット、バージナル

次の点にご注意ください：

- ・ 演奏曲は、その楽器のために作曲されたものでなくてはなりません。
- ・ 関連楽器で演奏する曲が ARSM 課題曲リストのものである場合、20 分のプログラム条件に含まれるものとします。課題曲リストの曲を 20 分弾くという条件は、必ずしも主たる楽器のみで満たす必要はありません。
- ・ 関連楽器で演奏することによって評点が有利になることはありません。

検定の準備

プログラム・フォーム

受検者は、プログラム・フォームを作成する必要があります。

対面検定において、受検者は適切に記入されたプログラム・フォームを演奏前に検定員に渡してください。用紙はウェブサイト及び英文要項 28 ページから入手できます。フォームの代わりに、白紙の上に必要な情報を記入しても構いません。オンライン検定の場合、受検者は動画をアップロードする際に指定のウェブページでプログラムの情報を入力してください。

- ・ 受検者の氏名、楽器
- ・ ARSM 課題曲リスト番号(自由曲の場合、「ー」表記)
- ・ 作曲家名、編曲者名(該当する場合)
- ・ 演奏する各曲に対する次の内容を含む情報：
 - 曲名/作品名
 - カタログ番号 - Opus(オーパス)番号、バッハ作品の BWV、モーツァルトの K など
 - 各楽章の詳細
- ・ 木管、金管楽器及び声楽(ミュージカルシアター含む)の受検者は、休憩時間をどこでとるか、その長さまで記載すること(対面検定のみ)。

記入例は本文 13 ページの付記 3 を参照のこと。

演奏前の紹介(オンライン検定のみ)

受検者は、演奏を始める前に自由曲の冒頭部分の楽譜をカメラに見せ、次の必要事項を口頭で述べる必要があります。

- ・ 氏名と演奏楽器
- ・ 演奏する順に各曲の曲名、課題曲リスト番号(該当する場合)

また、受検者身分証明規定に従い、受検者は写真付き ID をカメラに映して提示する必要があります。
(www.abrsm.org/policies)

これらは評点には含まれないため、場合によっては、未成年受検者の代わりに成人責任者(保護者)がカメラに楽譜を見せ(ID の提示は受検者本人のみ)、紹介のアナウンスを行うことが出来ます。演奏の評価は、最初に演奏される一音から始まります。

楽譜の解釈について

繰り返しの有無、フレーズ/装飾音の解釈、ビブラート/ペダルの使用などは、すべて、受検者の様式や演奏スタイルに基づいた判断が求められます。

ジャズスタイルの曲については様式に適った修飾を加味することは出来ますが、即興演奏をメインにすることは出来ません。

暗譜について

暗譜での演奏は任意ですが、演奏効果上、暗譜をしておくことが望まれます。

声楽の受検者は暗譜での演奏を勧めます。但し、オラトリオ/聖歌や、現代曲の複雑なスコアの場合を除きます。暗譜での演奏に対する評点の加点はありません。

譜めくり

譜めくりが決定的に困難な場合、受検者および伴奏者は譜めくり者を同伴することが認められています（事前申告は不要です）。検定員は譜めくりをしません。オルガンの場合、譜めくり者はレジスト操作することも出来ます。

検定員用のスコア

対面検定：演奏前或いは終了時に検定員が楽譜を参照する場合があります。その際受検者又は伴奏者のスコアを使用してください。暗譜にての受検者でも必ず、楽譜をご用意ください。

オンライン検定：受検者は自由曲の冒頭部分を演奏前にカメラに映します（「演奏前の紹介」項目参照）。その他の楽譜について検定員が確認する必要がある場合、ABRSM の資料室に問い合わせます。

コピーについて

英国の法律の定めるところにより、いかなる種類のコピーも認められていません。但し、『英国音楽出版協会』規約により、一定の著作権保持者のもので特殊な場合にコピーの使用が認められます。（詳しくは www.mpaonline.org.uk をご覧ください。）その他の場合においてはコピーをとる前に申請をし、検定において許可証の提示が必要です。

すべての受検者と申請者は著作権法の範囲内で行動することを求められます。不適切な行為などが判明した場合、検定結果の発表を保留する場合があります。

楽譜を求めるにあたって：

検定用の楽譜は、楽器店やオンライン（ABRSM も含む；www.abrsm.org/shop）で購入が可能です。課題曲の有効期間内は楽譜の購入が出来るような体制が採られております。受検者は必要な楽譜が品切れになる前に早めに購入することをお勧めいたします。楽譜について、検定以外に関する質問は、直接出版元へ。www.abrsm.org/publishers

4. 評価と採点及び違反行為

評価の目的

次の表は実技検定の際、受検者に必要な知識や技術のレベルを表しています。これらは検定員が評価する際の基準と連動しています。詳しい評価基準は英文 20 ページをご覧ください。

（訳註：英文 20 ページの基準一覧は英国圏でのレベル分けとなっている為、和訳は省略）

評価の配点

ABRSM 評価の点数は、下記の様に、要素毎に振り分けられています。

検定の区分	各セクションの満点	合計点に対する配分
課題曲の評価	30	60%
演奏全体の評価	20	40%
合計	50	100%

評点の区分

以下は検定結果の区分け一覧です。全体合格のために、必ずしも各項目において合格を獲得しなければならないということではありません。

評点の区分	評点の範囲
Distinction (秀)	45－50
Merit (優)	40－44
Pass (合格)	34－39
Below Pass (不合格)	17－33

包括的評価について

包括的評価とは、受検者が主要な課題において必要な技術、知識など効果的に使い、示しているかを判断する評価の形式のひとつです。ARSM ディプロマ検定では異なるスキル、知識、理解力ー理論、表記、楽器のコントロール、聴く力、創造的な解釈力等をまとめて、検定の個々の科目に応用することが出来るのです。

評価

検定員の評価は、当日の検定内容のみに基づいて行われます。以前のパフォーマンスは評価の対象とはなりません。オンライン検定では、一つの動画を評価のためアップロードできるのは一度きりです。同じ動画を同じ、又は違う資格検定の為に再利用することは禁止されています。以前一度アップロードされた動画が再度提出された場合、二度目の動画は不適格とみなされ、その検定は失格になります。

評価の基準 (Marking Criteria)

英文 22 - 23 ページの評価リストは検定員が ARSM 検定のために実際使用するもので、科目ごとに合格基準をもとにして合格点からプラス或いはマイナスしていくという採点方式です。

まず、検定員は課題曲について英文 22 ページの基準を用いて 30 点満点から採点します。これらの基準は検定員がどのように演奏を聴きながら各曲についてコメントを書き、演奏曲全体についての点数を付与するかを示しています。

プログラムの演奏がすべて終わった後、演奏全体について英文 23 ページの基準を用いて 20 点満点から採点します。ここでは音楽の総合的な演奏力を、コミュニケーション、解釈、伝達の側面から評価します。演奏全体の解釈についての基準と補足説明は英文 24 ページにてご参照ください。

(詳しい和訳はピアノ要項に掲載されています。)

演奏全体の評価 - 補足説明

合格基準として、受検者は選択した曲のプログラム全体を通して一貫した演奏をこなすことを求められます。演奏者の曲への気持ち、音楽的な描写、音楽的要素の解釈、楽器の演奏に必要なテクニックなどが十分に伝わりやすいレパートリーを選ぶ必要があります。また、伴奏者と演奏する際に必要なアンサンブル能力、安心できる演奏を聴衆に届けるために必要なスタミナなどにも注意しなければなりません。

受検者はコミュニケーション (C)、解釈 (I)、伝達 (D) の三つの部分において、途切れのないプログラム全体の演奏をこなせる能力を証明する幅広い範囲の音楽的、技術的なスキルを披露する必要があります。

ARSM (RQF Level 4)

C	受検者は、音楽的なコミュニケーション能力、目的、個人的な曲への気持ちなどを多様でバランス良い音楽的、技術的な難易度が高いレパートリーで構成されたプログラムを通して表現します。演奏中及び曲の前後において、演奏の流れについての洗練された認識を示します。長時間の演奏を通して、演奏に対する真剣な態度を示し、音楽に集中できる機会を作り出します。
I	受検者は、音楽的なディテールを生かすことによって各曲の特徴を表現し、洗練された音楽様式への理解と演奏においてのそれぞれ異なる役割、複雑な音楽要素をバランスよく取り入れる能力などを披露します。
D	受検者は、自身の楽器をしっかりとコントロールしながら自在に扱い、自信を持って高水準レパートリーの技術的な難関に対応します。長時間プログラムの最初の音から最後の一音まで一貫して技術的な安定感を維持するための集中力とスタミナを示します。

違反行為

受検者/受検予定者は、実技検定要項に掲載された検定内容を読み、遵守することが重要です。これらに違反した場合は、ABRSMの裁量にて警告、減点或いは失格となる場合があります。以下は違反行為の例です：

- ・ 自由曲のレパートリーが、レベルに合わない場合
- ・ プログラムの時間が短すぎ或いは長すぎた場合
- ・ ARSM からの曲が 20 分以下の場合
- ・ ARSM レパートリーの不適切な演奏：指示されている楽章以外を弾くなど
- ・ オンライン検定にて、一度に連続で撮影されたものではない、又はその他の方法で編集された動画を提出した場合

これらに対する対応としては

- ・ 書面での警告：主に細かい違反に対して行われます。それ以降の検定において違反行為が続く場合には、より重い罰則が科せられます。
- ・ 各要素（訳注：課題曲など）の減点：基準を満たさない自由曲の選択のようなより重要な違反に対しては、各項目つき 2 点からその項目の満点までの範囲において減点が行われることがあります。
- ・ 基本的に検定内容が遵守されていない場合（例：当該グレードからの選曲が皆無である 等）には失格もあり得ます。

検定員は違反行為を ABRSM に報告し、その裁量と対応がなされます。その為、結果通知が遅れる場合があります。以前同じ違反行為が罰則なしで受け入れられたとしてもそれは先例にはならず、これによるアペールは受け付けません。

5. 検定の後に

結果

全ての受検者は検定の結果を受け取ります、又合格者へは、合格証が送付されます。ABRSMはできるだけ所定のスケジュールに沿って、結果を送付するようにしておりますが、遅れる場合もあります。検定員は結果報告に関してのいかなる行為も行いません、即ち評点用紙（合格者には合格証）は、検定後本部より発行されます。又、結果はエントリーフォームに記載されている受検申込み者に送付され、受検者に責任を持って伝えられます。

ポスト・ノミナル・レターズ

受検者は、合格後、自身の名前の後ろにARSMの文字を綴ることが出来ます。

アピールとフィードバック

アピール

受検者が予期せぬ結果を受け取った場合は、Result Reviewを要求することが出来ます。これにより検定員からの評価が再検討され、場合によっては、評点の変更もあり得ます。

フィードバック

結果再検討に加えて、結果以外のフィードバック、例えば検定全般や、マークフォームなどについてのフィードバックも歓迎いたします。これにより継続的な検定の改善を目指しております。

フィードバックの期限など詳細は www.abrsm.org/send-exam-feedback をご覧ください。

6. その他の検定

DipABRSM / LRSM / FRSM (演奏)

これらのディプロマは、年齢に関係なく全ての器楽、声楽の学習者が受検できます。その場での検定と、あらかじめ用意された論文／エッセイなどにより、音楽的な知識や理解に基づいた、受検者の演奏技術、コミュニケーション能力、研究能力などが示されます。全てのディプロマは次のレベル受検への必須条件となります。

主な特徴

- 受検者
 - リサイタルプログラムに基づく演奏
 - あらかじめ、プログラム ノート (DipABRSM および LRSM) 又は提出論文 (FRSM) を作成
 - リサイタルや、プログラムノート／提出論文の内容を中心としたヴィヴァ・ヴォーチェ (口頭試問) が行われます。
- 短い無伴奏の初見曲：5分間の試弾ができます。(クイック スタディ)
- これらのディプロマは所定の期間と会場で行われます。
(訳註：日本ではグレード実技検定と同じ時期に行われます。)
- これらを、資格のひとつとして、証明書、プロフィール等の名前の後に書き加えることが可能です。

これらのディプロマを受検するには、各々のレベルでの事前取得が必要です。

詳しくは www.abrsm.org/diploma 又は www.abrsm.org/specifications を参照のこと。

ABRSM のシラバスは、随時更新されています。変更点は事前にウェブサイトでお知らせいたしますので最新版のサイトをご確認ください。 www.abrsm.org/syllabusupdates

その他のディプロマ検定

これらのディプロマ検定は、楽器／声楽の指導、指揮法の領域でも行われます。

詳しくは www.abrsm.org/diploma を参照のこと。

現在ディプロマ検定内容の変更、改訂作業が行われております。現時点で、ここに記載されている内容の最新情報は www.abrsm.org/diploma をご覧下さい。

曲目プログラム用紙（参考和訳）

ARSM プログラム・フォーム

ABRSM

このフォーム(英文 28 ページ)を、演奏順に、細かい点まで記入してください。

対面検定：演奏前に検定員に渡してください。

オンライン検定：受検者はプログラムの情報を動画アップロード時にオンラインで入力してください。

受検者名 _____ 受検者国家 ID（日本は該当なし）

受検楽器 _____ 関連楽器（該当する場合のみ）

ARSM リスト番号	作曲者 (編曲者)	作品名(タイトル、作品番号、 楽章番号などを含む)	演奏時間 (0'00')
67	モーツァルト	ソナタ 口長調 作品 570	
		第 1 楽章 アレグロ	6' 25"
		第 2 楽章 アダージオ	8' 45"
		第 3 楽章 アレグレット	3' 35"
(訳註：以下同様に英語で記載のこと)			
		休憩	2' 00"
			演奏時間合計：30' 00"

木管、金管楽器及び声楽の受検者は、休憩時間を必ず含めて記入すること。

検定員記入欄 受検日 検定員コード

ARSM programme form

ABRSM

Please complete this form, including full details of your programme in the order you are presenting it.

For face-to-face exams: Bring it to your exam and hand it to the examiner before you begin.

For digital exams: Candidates should provide their programme information online when they upload their video.

Name _____ Candidate/National ID _____

Subject _____ Related instrument(s) _____
(instrument) (if used)

ARSM list no.	Composer (and arranger if applicable)	Piece/Song to be performed (include work title, Opus or other catalogue number, detail of individual movements/sections, as applicable)

Woodwind, brass and singing candidates should also indicate any planned break.

For examiner's use: Date of exam ____/____/____ Examiner code _____